

ジャン・ルノワールのトニ (1935)

TONI

メディア 映画

ジャンル ドラマ ロマンس

製作国 フランス

色彩 B&W

時間 95分

公開情報 劇場未公開・ビデオ発売

【解説】

ジャック・ルベールの原作をルノワール自身が潤色・再構成したシナリオを映画化。移民が多く人種のはるつぼである南仏にやってきたイタリア人のトニは下宿の娘マリーに好かれながらも、友人のぶどう園主セバスチアンの娘ジョゼファに恋をし、求婚する。しかし、彼の働く採石現場の監督アルベールが無理矢理に彼女をものにし、彼らは結婚。その式の際中も悲嘆にくれるトニは、マリーとかりそめの所帯を持つが、ジョゼファに未練たらたらで、2年後、夫婦互いに浮気をして破局を迎えた彼女と改めてヨリを戻す。ジョゼファは結婚する前から彼女といい仲だった従弟のギャビーと共謀し、セバスチアンの遺した農園の利益を独占するアルベールから金を取り戻そうとして、彼を殺してしまい、その現場にたまたま居合せたトニは彼女と逃亡を図るのだが……。浮気性の女を激しく愛したばかりに倫落する純情な移民男への共感いっぱい、ルノワールは得意のロケ撮影でほぼ全篇を通し、南仏の生命の輝きを見事フィルムに封じ込めることに成功している。単純で明快で奥深い、〈男〉のメロドラマの傑作だ。ジョゼファが蜂に刺されたのをいいことにトニを誘惑する場面の官能性は特に見もので、スペイン移民たちの奏でるギターの哀愁のメロディも印象深い。

【クレジット】

監督	ジャン・ルノワール	Jean Renoir
製作	フィルム・トシュルデュイ	
原作	ジャック・ルベール	
脚本	ジャン・ルノワール	Jean Renoir
撮影	クロード・ルノワール	Claude Renoir
音楽	ポール・ボツィ	
出演	シャルル・ブラヴェット	Charles Blavett
	セリア・モンタルヴァン	Celia Montalvan
	マックス・ダルバン	Max Dalban
	ジェニー・エリア	
	アンドレ	Andrex
	ポール・ボツィ	
	エドゥアール・デルモン	Edouard Delmont